



株式会社ウェッジホールディングス 2012年 8月 会社説明会

2012年 8月28日



www.wedge-hd.com



Contents

- **当社の概要**
 - 会社概要
 - グループの構成
 - 主要な市場と事業構成
 - 沿革
 - 改革による事業構造変化と成長
 - 連結業績の推移(直近5期)
- **2012年9月期 第3四半期決算内容と事業トピックス**
 - 連結経営成績(P/L)
 - セグメント別業績
 - トピックス:ファイナンス事業
 - ファイナンス事業の業績と営業状況
 - GLの市場評価と株価推移
 - 連結財務状況(B/S)
 - 2012年度連結通期業績予想と進捗
- **今後の事業方針とファイナンス事業の新市場開拓について**
 - 事業方針
 - ファイナンス事業の展開:ARFC Vision
 - カンボジア市場へ進出
 - カンボジア市場の特徴①～③
 - カンボジアの現地事業状況①～⑤
 - カンボジア市場での今後の展開
 - ファイナンス事業の役割
 - ARFC 今後の市場展開と目標



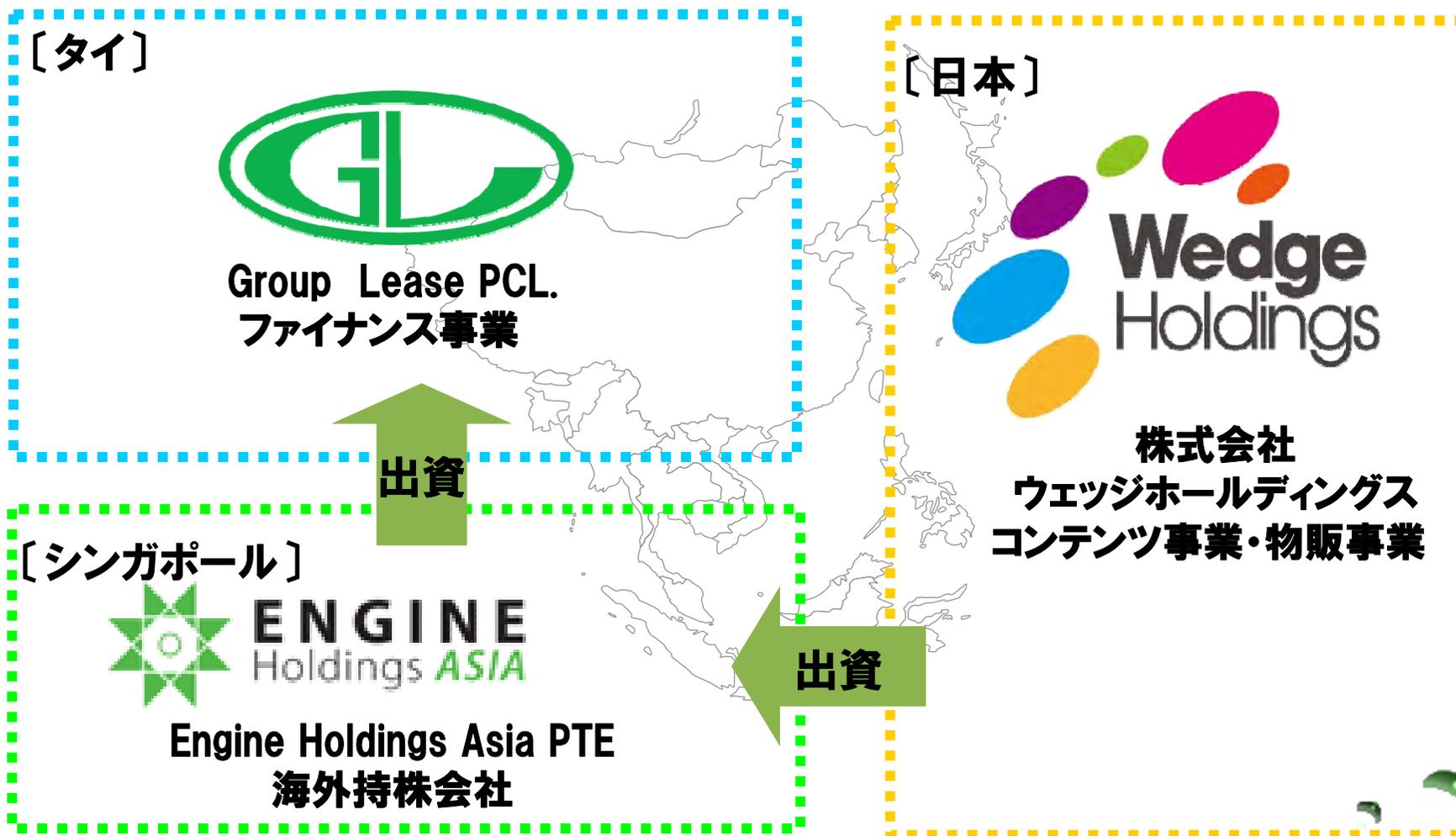
当社の概要

会社概要

❖ **会社名: 株式会社ウェッジホールディングス**
(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)

- **設立:** 2001年10月
- **資本金:** 1,939,143,700円
- **上場市場:** JASDAQ グロース
- **代表者:** 代表取締役会長 此下竜矢
代表取締役社長 田代宗雄
- **本部事業所:** 東京都中央区日本橋本町1-9-4
Daiwa日本橋本町ビル
- **従業員数** 323人(うち海外258名)
※グループ全体・2012年6月末時点
- **主要なグループ会社**
 - **海外子会社** Group Lease PCL.(タイ 証券取引所一部上場)
Engine Holdings Asia PTE(シンガポール)
 - **持分法適用関連会社**
P.P. Coral Resort Co.,Ltd (タイ)
Engine Property Management Asia Co.,Ltd. (タイ)

グループの構成



主要な市場と事業構成

東南アジア

ファイナンス事業

- ❖ オートバイファイナンス
(タイ国内)



日本

コンテンツ事業

- ❖ カードゲーム
- ❖ 書籍制作・出版
- ❖ 音楽事業



物販事業

- ❖ 海外キャラクター
商品の卸売・小売



沿革

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
 - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場(現JASDAQ)に株式上場
 - » 翌年にかけて、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大

- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
 - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
 - » 2007年9月期まで3期連続の赤字が続く業績低迷期に

2001～2004

設立と
上場期

2005～2007

業績
低迷期

2008～2011

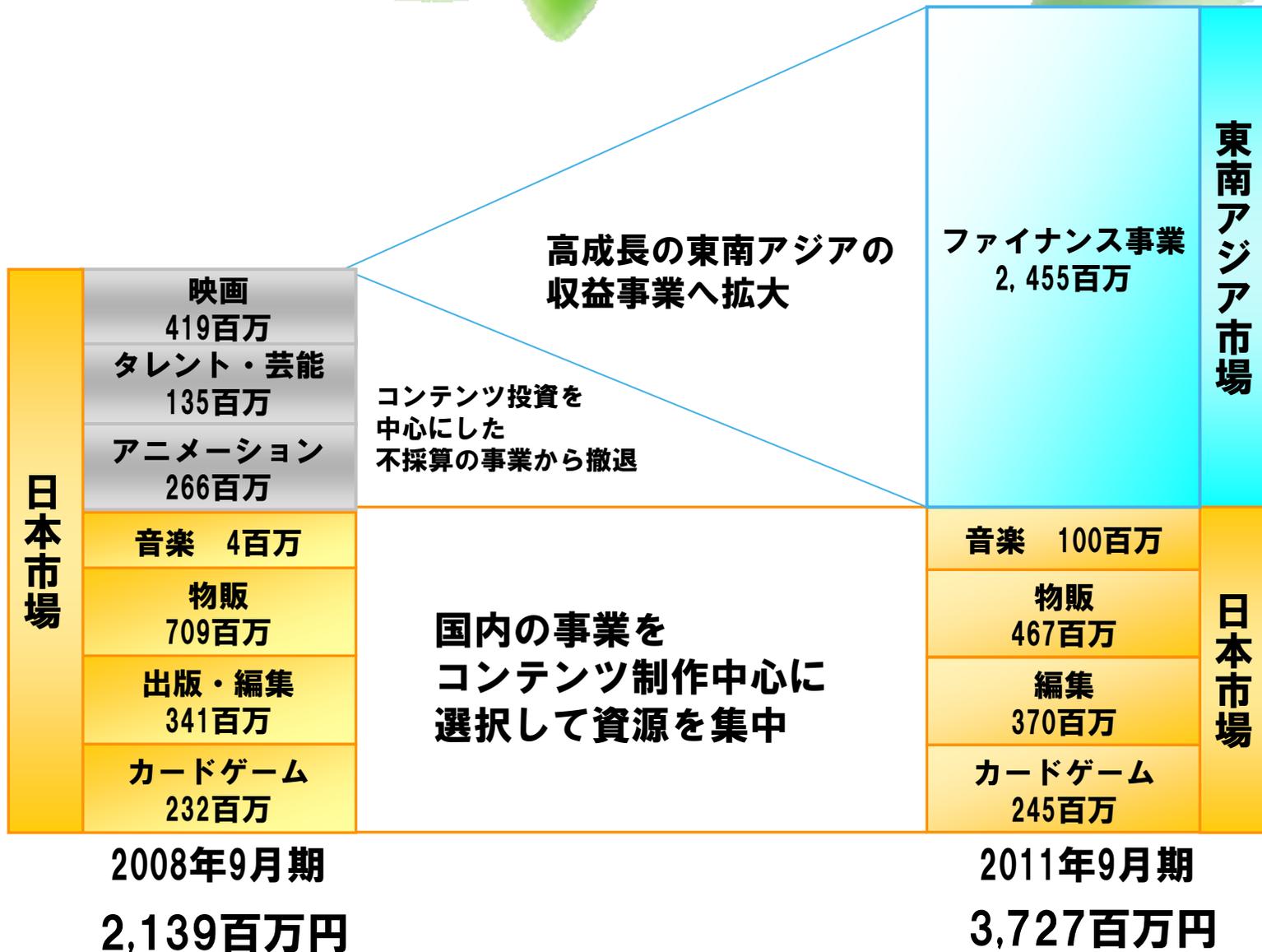
経営
改革期

2012～

新たな
成長へ

- 2007年12月 経営体制を変更、改革に着手
- 2008年11月 2008年9月期、黒字転換
- 2009年1月 シンガポールにEngine Holdings Asiaを設立、東南アジアへの投資基盤に
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社 Group Lease PCL.を連結子会社化、ファイナンス事業に拡大

改革による事業構造変化と成長

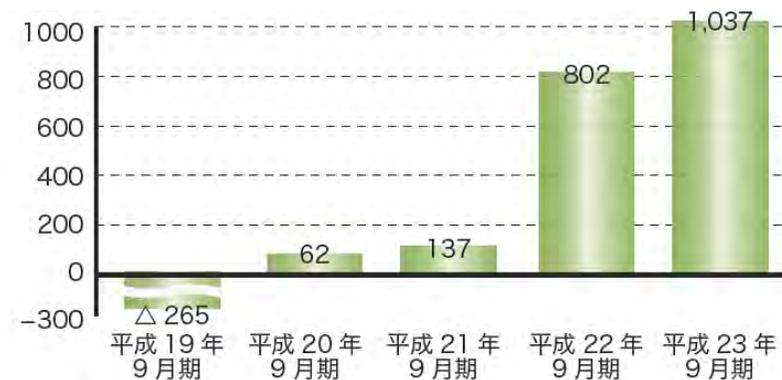


連結業績の推移(直近5期)

売上高推移

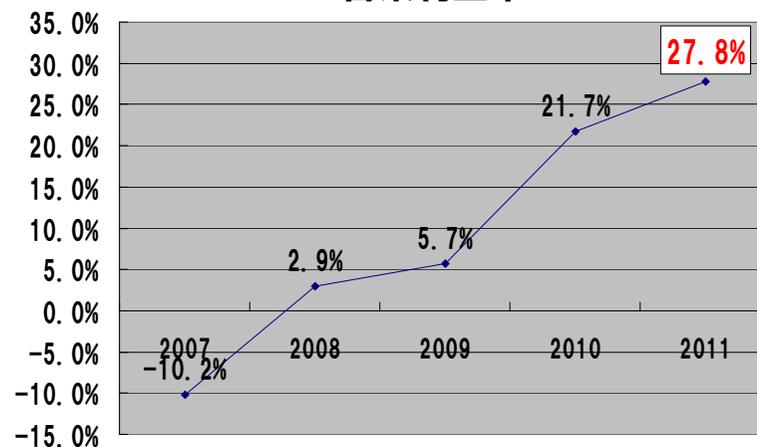


営業利益推移



(単位：百万円)

営業利益率



- 2008年(平成20年)の営業黒字化以後、海外事業を中心に業績伸長。
- 国内不採算事業の整理で国内事業も着実に利益改善、改革の成果が現れる段階に。

**2012年9月期
第3四半期 決算内容と
事業トピックス**

連結経営成績 (P/L)

(単位：千円)

	2012年度 第3四半期実績	2011年度 第3四半期実績	対前年比	2012年度 通期業績予想	達成率
売上高	2,419,212	2,820,847	85.8%	3,300,000	73.3%
営業利益	604,637	830,388	72.8%	830,000	72.8%
経常利益	661,284	799,947	82.7%	800,000	82.7%
当期純利益	172,598	201,700	85.6%	230,000	75.0%

❖ 前年同期比では減収減益も、期初予想には順調に推移

- 円高が続き海外収益による売上・利益は縮小影響
- 洪水等の影響による上半期減収から営業拡大で売上は回復傾向に
- 業績予想に対する進捗は順調。
国内の健闘続き、海外利益の拡大を見込む。

セグメント別業績

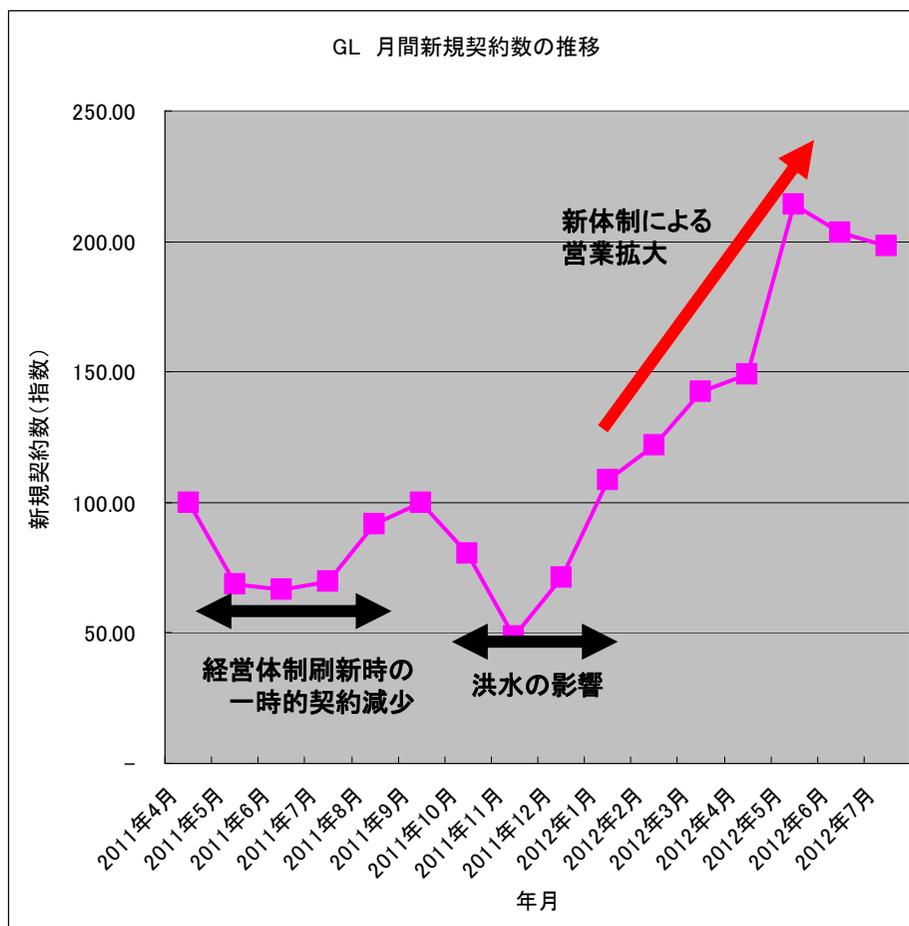
(単位：千円)

報告セグメント		2011年9月期Q3	2012年9月期Q3	前年同期比
ファイナンス事業	売上高	1,903,080	1,562,791	82.12%
	セグメント利益	814,256	584,846	71.83%
コンテンツ事業	売上高	508,175	541,487	106.56%
	セグメント利益	138,986	206,886	148.85%
物販事業	売上高	327,293	313,679	95.84%
	セグメント利益	▲ 13,250	▲ 16,512	
(合計)	売上高	2,820,847	2,419,212	85.76%
	セグメント利益	830,388	604,637	72.81%

- ❖ **ファイナンス事業は営業好調だが、国内の会計処理では新規契約は費用計上が先行**
 - 急拡大の新規契約に対して日本国内の会計処理では貸倒引当金を先行計上、短期的に利益を引き下げる影響に
 - 円高による為替の影響によっても海外売上・利益が縮小
 - ❖ 前期1パーツ2.69円から今期2.53円と約6%悪化
- ❖ **コンテンツ事業の業績は好調に推移。収益性高まる**
- ❖ **物販事業は低調続く中一部挽回、前年並み水準に**

トピックス:ファイナンス事業

❖ 新規契約拡大が継続 過去最高契数を突破



❖ 積極的な営業施策が奏功、四半期で過去最高契約数に

- 取引先ディーラーの拡大
- 営業担当者の増強
- サービス体制の改善

※GLの契約台数指数は
2011年4月の新規契約数を
100として算出

月間契約数は前年比200%越の水準が続く状態に

ファイナンス事業の業績と営業状況

タイ国内基準

(単位：百万バーツ)

Group Lease PCL.の半期業績(GLの決算期は12月末のため半期累計)

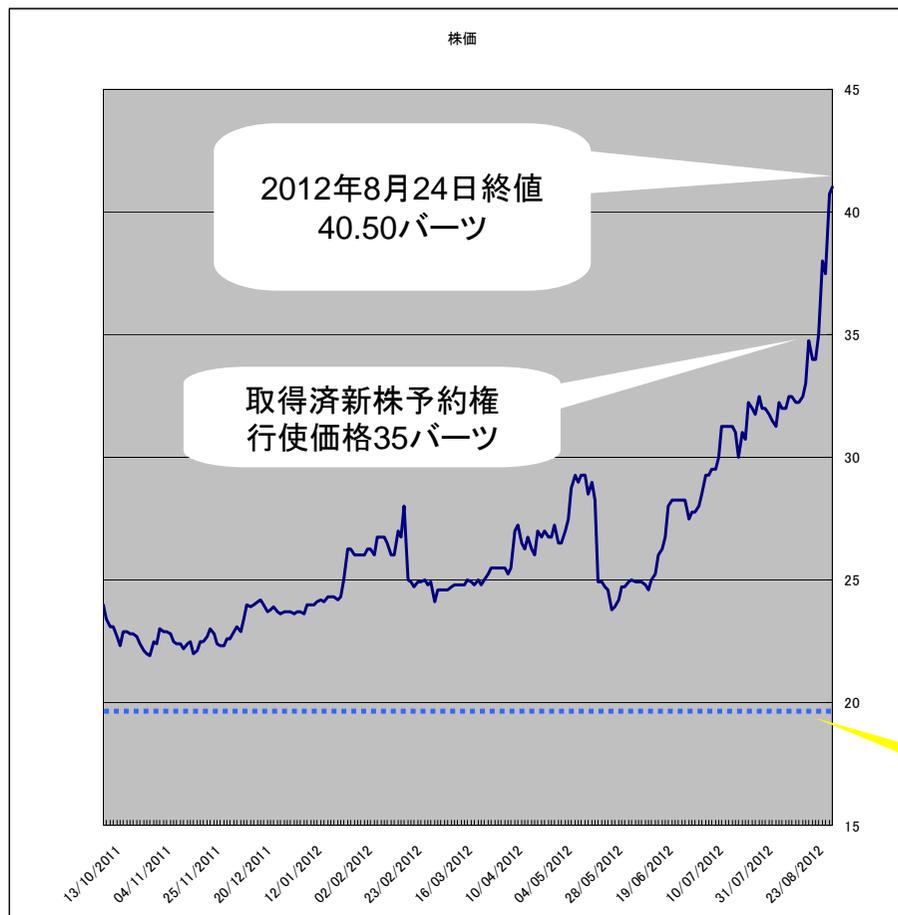
	2012Q1	2012Q2	前Q比	2012Q2累計
売上高(タイ基準)	193,317	230,249	119.1%	423,566
営業利益(タイ基準)	72,955	114,517	157.0%	187,472
売上高利益率	37.7%	49.7%	—	44.3%

❖ タイ国内基準では大幅に業績伸張

- ❖ GLはSET(タイ証券取引所)1部に決算を発表
- ❖ 契約急伸の2Q(4月から6月)の営業利益率はほぼ50%に
- ❖ 7月も同水準の契約が続くなど、3Q以降も高水準の事業展開に

GLの市場評価と株価推移

❖ 2011年10月から現在までの株価推移



- ❖ 業績を好感し株価は急伸
 - ❖ 当社の平均取得価格から200%超の水準に
- ❖ 新株予約権取得で今後も持分比率を維持向上を予定
 - ❖ GLは行使価額35バーツで既存株主割当で新株予約権を、9月初の株主総会後に発行予定

当社グループ平均取得
価格19.90バーツ

連結財務状況(B/S)

(単位：千円)

連結貸借対照表	2011年9月期	2012年Q3	対前期末比	増減要因
流動資産	6,463,048	6,482,555	100.3%	ファイナンス事業において前期から期初にかけての新規契約数減から回復、当四半期では過去最高契約数となったことで増加に
固定資産	3,005,629	3,091,368	102.9%	
資産合計	9,468,677	9,573,924	101.1%	
流動負債	2,602,416	2,160,968	83.0%	1年内返済予定長期借入金の減少 3.23億円など
固定負債	929,327	689,440	74.2%	長期借入金の減少2.4億円など
負債合計	3,531,743	2,850,349	80.7%	グループリースの資本増強と国内外の純利益により負債を圧縮
株主資本合計	4,561,767	4,734,365	103.8%	
純資産合計	5,936,933	6,723,575	113.2%	四半期純利益の計上等により純資産は順調に増加

2012年度連結通期業績予想と進捗

(単位：千円)

	2012年9月期 第3四半期実績	通期業績予想	比率
売上高	2,419,212	3,300,000	73.3%
営業利益	604,637	830,000	72.8%
経常利益	661,284	800,000	82.7%
当期純利益	172,598	230,000	75.0%

❖ 通期業績予想に対しても良好に進捗

- ファイナンス事業は売上、利益拡大に加速を期待
- 各利益指標でも進捗は良好

❖ 予想時と比較すると為替は円安に

- 業績予想時の想定レート 1バーツ=2.48円、
3Q末までの平均レートは2.53円の円安傾向で海外利益には順風

現時点では従来予想に変更なし

**今後の事業方針と
ファイナンス事業の
新市場開拓について**

事業方針

❖ 中期経営計画「アクセルプラン2012」を策定

- ファイナンス事業・コンテンツ事業を核に
新市場開拓へ

ファイナンス事業

ARFC Vision による
クロスボーダー戦略

- ・タイ国内の成長加速に加えて
新たにASEAN各国市場に
展開することで飛躍
- ・ASEAN各国の草の根経済
インフラとして役割を担う存在に

コンテンツ事業

「編集力」を
主軸にした収益拡大

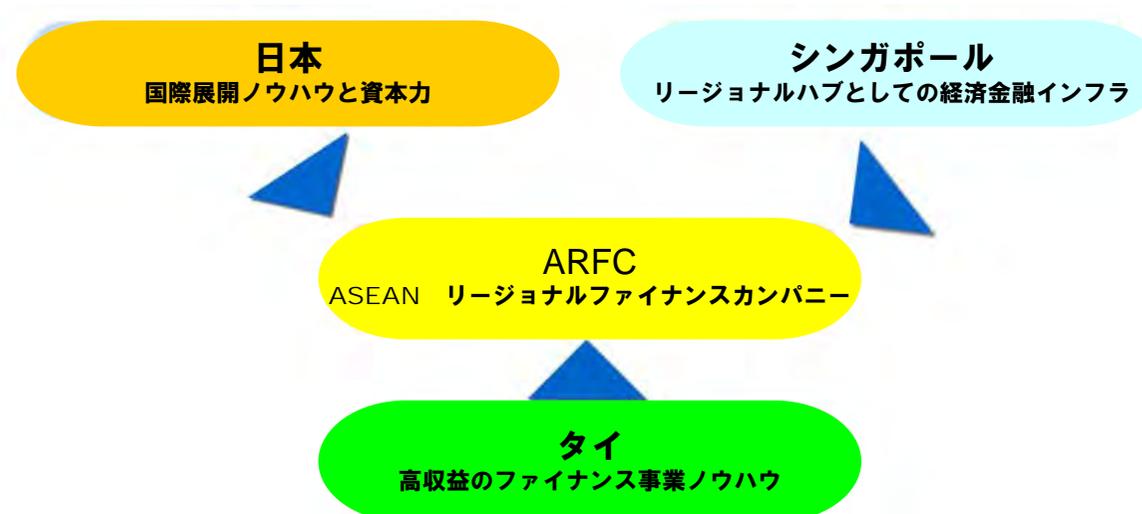
- ・コンテンツ事業の「編集力」を
コアコンピタンスとして収益性を強化
- ・新コンテンツ獲得の強化と
制作物のマルチ化で成長へ

ファイナンス事業の展開： ARFC Vision

❖ タイからASEAN全域へと事業開拓

■ ASEAN Regional Finance Companyとしての展開

- タイでの地域に密着したファイナンス事業のノウハウを、日本とシンガポールの資源で、ASEAN地域にグローバルに展開する「グローバル」ビジネスへ
- リージョナルハブとして、ASEAN事業の持株会社 GL Holdings社をシンガポールにおいて事業展開



カンボジア市場へ進出

❖ カンボジアでファイナンス事業子会社を取得

- 2012年8月22日、GL Finance PLC.の株式99.8%を取得し子会社化を決定、カンボジア市場進出へ

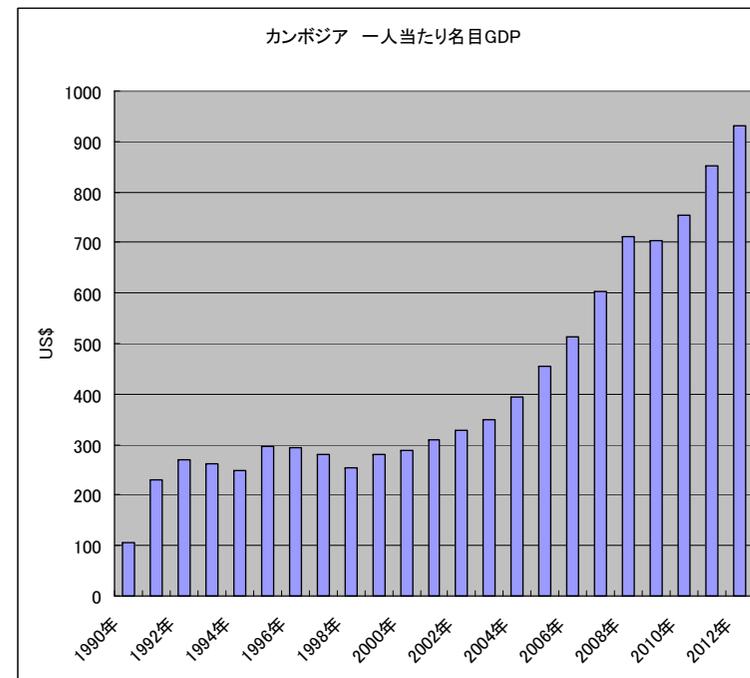
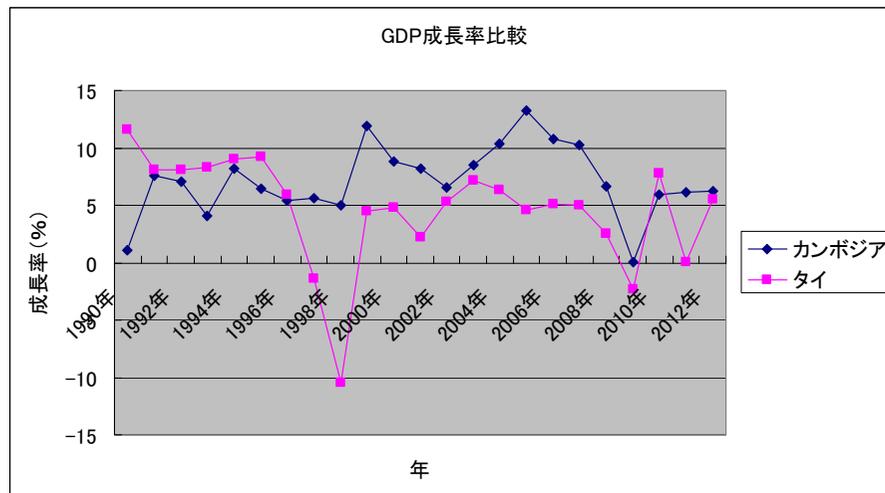
■ GL Finance (GLF)

- カンボジアで最初のファイナンスリース事業ライセンスを取得した唯一のファイナンスリース会社
- 同国内シェア約98%のHONDA製オートバイの正規ディーラーでの独占権を保有



カンボジア市場の特徴①

❖ 高いGDP成長率が継続、一人当たりGDPの伸張が続く成長市場



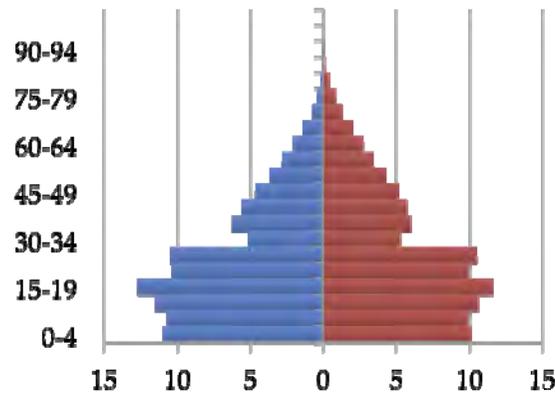
出典: IMF World Economic Outlook
世界経済のネタ帳 www.ecodb.net

※2011年及び2012年
GDP及びGDP成長率は推定値

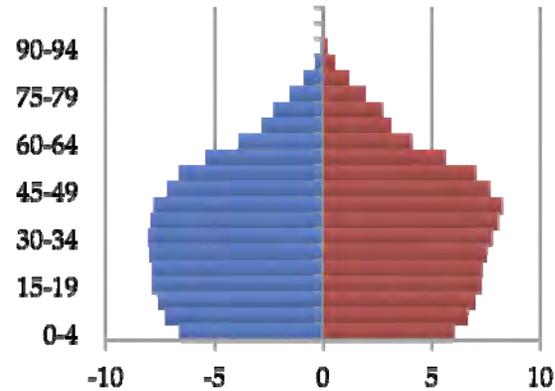
カンボジア市場の特徴②

❖ 人口動態からも長期にわたる経済成長が期待される

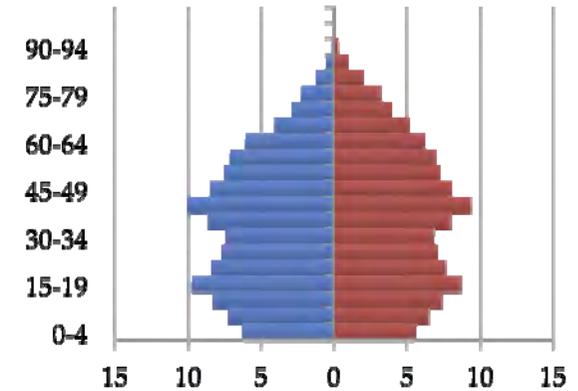
Cambodia 2010



Thailand 2010



Japan 1990



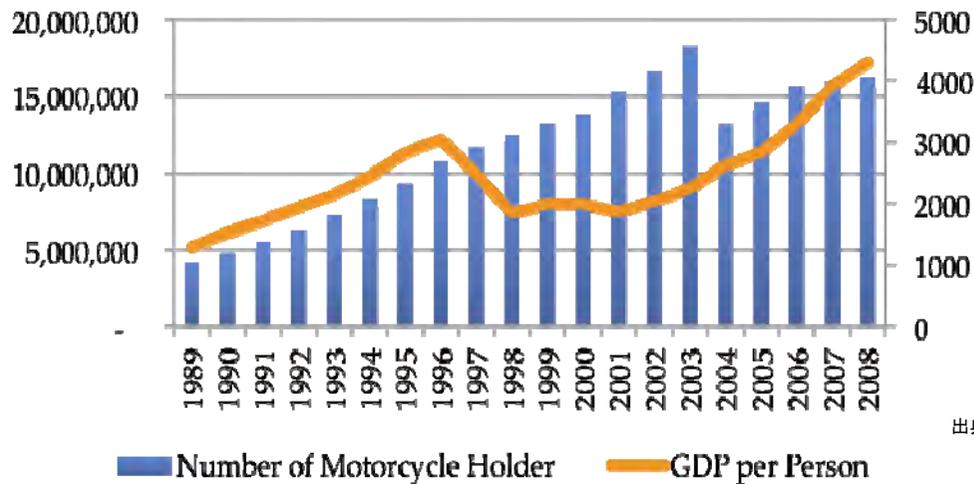
人口ボーナス時期

	開始時期	終了時期
日本	1930-35	1990-95
タイ	1965-70	2010-15
カンボジア	2020-25	2065-75

カンボジア市場の特徴③

❖ タイのオートバイ市場との比較

Trend of number of Motorcycle Holder and GDP per Person in Thailand



出典：タイ陸運局及び中央銀行
発表資料より当社作成

	タイ	カンボジア
名目GDP	3770億US \$	140億US\$
人口	約6400万人	約1500万人
一人当たりGDP	約6000US \$	約900US \$
オートバイ年間販売台数	約200万台	約20万台

❖ 1990年頃のタイ経済に近い段階で、カンボジアは今後急速にオートバイ普及が見込まれる

カンボジアの現地事業状況①

❖ 好況が続くカンボジア市内のオートバイ販売店

- オートバイのニーズが高まる中、需要期は供給不足も発生



カンボジアの現地事業状況②

❖ オートバイに対するステイタスは高い



カンボジアの現地事業状況③

❖ カンボジアの中古車市場

- 需給環境から中古車市場も高価格で推移



カンボジアの現地事業状況④

❖ NCX社Showroom内にGLF1号店が出店



◆NCX Co., Ltd.
カンボジアにおいてHONDA
ブランドオートバイを独占的に
製造販売する企業
<http://www.honda.com.kh/>

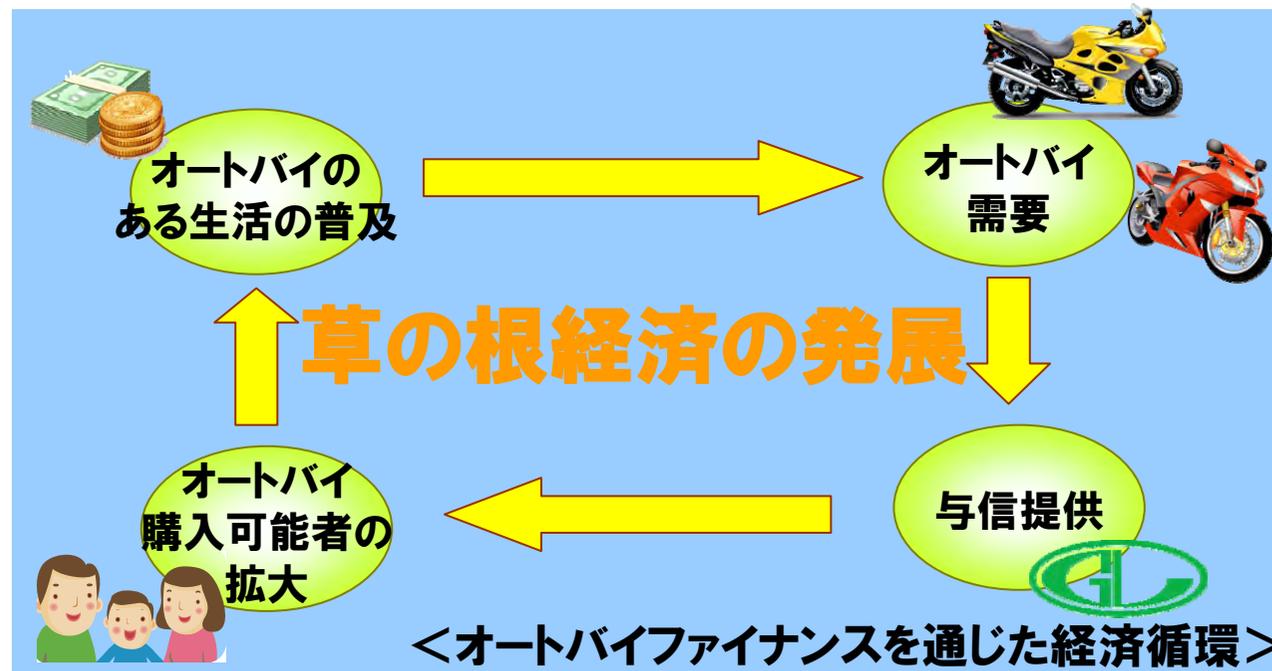
カンボジアの現地事業状況⑤

❖ プノンペン空港近くの大規模販売店でも営業開始



ファイナンス事業の役割

- ❖ ファイナンス基盤の提供で成長市場の経済発展を推進する
 - マイクロファイナンスにより購入可能な消費者を創出
 - 普及と更なる需要喚起の好循環
 - 生産財としてのファイナンスが経済成長を推進



タイ・カンボジアからASEANの草の根経済インフラへ

ARFC 今後の市場展開と目標

- ❖ メコンデルタ経済ベルト・マラッカ経済ベルトを中心にした市場への展開
- ❖ 今後もM&A及び子会社新設による展開



<今後の目標>

- ◆2012年以内に2カ国以上に進出
- ◆今後5年では現在のタイ市場と比べて海外でのポートフォリオを8倍以上に
- ◆タイ市場でも5年以内でポートフォリオを現在の2倍に



Thank you!

弊社IRに関するお問い合わせ先
株式会社ウェッジホールディングス 経営管理本部
TEL: 03-6225-2161 / FAX: 03-3548-0566
wedge-ir@wedge-hd.com
<http://www.wedge-hd.com>



※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。